

認知症初期集中支援チームについて

◆目的

認知症の人が住み慣れた地域で暮らし続けられるように、認知症の人やその家族に初期に訪問等で直接関わり、早期診断、早期対応に向けた支援体制を構築する。★「初期」とは認知症初期」と「対応初期」の意味を持ちます。

◆対象

- ・40歳以上で、在宅で生活し、認知症（疑いも）の人で、適切な医療や介護サービスに結びついていない人。
- ・医療や介護サービスを受けているが、認知症の行動・心理症状が顕著なため、対応が困難な人。

包括の総合相談として対応できるものを除きます。

◆体制

直営とし、事務局を市高齢者支援課に置く

◆チーム員

- ① 認知症サポート医
- ② 医療職と介護・福祉職のペア
高齢者支援課保健師、社会福祉士
地域包括支援センター職員
認知症地域支援推進員

各場面で必要に応じ専門職に助言、本人への診察、訪問、主治医との連絡

センター職員全員がチーム員。包括としての支援と、チームとしての支援が分断しない。

◆特徴

- ・6か月間をめぐりに集中的に関わり、医療や介護サービスにつなぐ
- ・チーム員による身体的ケア、環境整備等の直接支援ができる
- ・力を尽くしても受診できないような場合はチーム支援が有効

どうしても医療や介護につながらない認知症の人のセーフティネットです。

◆認知症初期集中支援チーム検討委員会

- 年1回開催、石狩市介護保険事業運営協議会をあてる
- ・協議事項：チーム運営状況の報告、改善策の検討など

平成30年度認知症初期集中支援チーム実績

【実績】

相談 1 件 チーム支援 1 件

【対象者】

- ・80代在宅独居の女性
- ・認知症（疑）の行動・心理症状
「タクシーや徒歩で外出し自力で帰宅できない」「預貯金を一人でおろすことができない」「食品を適切に管理できない」など
- ・かかりつけ医なし
- ・要介護認定なし

【支援期間】

平成31年3月8日から現在に至る

【相談経路】

平成30年11月、民生委員から地域包括支援センターに相談があった。同時期に他機関からも、本人を心配する情報提供が相次いでいた。包括の主任介護支援専門員と保健師が訪問を重ねたが、本人の拒否もあり必要なサービスにつながらず、市と協議を経てチーム支援の対象と判断した。

【チーム員】

認知症サポート医、市保健師、市社会福祉士でチームを編成

【初回訪問】

平成31年3月8日 市保健師、包括保健師

【初回訪問時における生活上の課題】

道迷い、買い物、調理、食品管理、金銭管理、予定管理などに支障あり。

【チーム員会議】

平成31年3月14日 参集者：チーム員と包括保健師

支援計画：認知症サポート医による訪問（介護認定申請の意見書作成のため）
保健師、社会福祉士による訪問（受診勧奨、生活状況把握、関係構築、介護サービス導入支援）

【訪問回数】

5回（H31.3.8～3.31）

【効果】

- ・受診に応じない次の支援として、認知症サポート医の訪問準備を整えた。
- ・介護認定申請に至った。
- ・食事状況、食品管理、金銭管理等の生活状況が把握できた。
- ・チームとして複数の職種や機関で関わることにより、支援の幅が広がった。

【運営上工夫した点】

- ・チーム員以外の市職員や包括職員とも常時情報共有し、急な対応に備えた。
- ・認知症サポート医訪問時に本人不在とならないよう対策した。
- ・本人の立ち寄り先との連携。

【運営上の課題】

- ・アセスメントツールを活用しきれていない。
- ・本人の拒否が強い場合、つなぎ先がなく中長期にわたりチーム支援が継続または終了する可能性がある。